

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490700079		
法人名	株式会社 千怒の杜		
事業所名	グループホーム 千怒の杜(けやき)		
所在地	大分県津久見市千怒7389番地		
自己評価作成日	平成29年11月24日	評価結果市町村受理日	平成30年2月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成29年12月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・普段から近所の散歩や日曜ドライブ等に出掛けたり外出支援に取り組んでいる 出来る限り本人の意に沿って生活出来る様に心がけ 特に外出・買い物や通院は力を入れて実施している ・母体につくみクリニックがあることで定期的な訪問診療や急変時の対応での連携がとれ 安心感を持って生活できる また見とりに際しても急変時のフォローや家族の泊まり込み等の下 生活を継続しつつ終末期を迎える事が空出来る ・ご家族の面会も時間制限などせず気兼ねなく来て頂けるよう努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>【グループホーム千怒の杜(かえで)に記載】</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を玄関に掲示しており日々実践に繋げるため具体的な対応策を職員心得としてまとめ朝礼で復唱し共有実践出来る様にしている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の散歩中の挨拶や地区清掃活動への参加小学校の行事や教会の講話などイベントを通してつながりや交流を持てるようにしている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	徐々に認知症施設と知ってもらえたからか徘徊している方の問い合わせがあり微力ながら手助けする事が出来た		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	災害時の対応や必要な手助けなどを伝える事で協力もらえる様にしたり、助言をもらい警察に徘徊者を登録したりする事が出来た		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や研修などに参加したり市の水質検査に協力したりする事で日頃からつながりが出来る様に取り組んでいる		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯以外の施錠はしない事とし職員会議で身体拘束の研修を実施どういった行動が身体拘束に当たるのか勉強し普段の介護が当てはまらないか話しあう事で無くすように取り組んでいる		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議で虐待の研修を実施精神的なものも含めて虐待を勉強し普段の介護が当てはまらないか話しあう事で知識を深めている。あざや傷の箇所を把握し記録に残す事で防止に努めている。		

事業者名:グループホーム千怒の杜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議で権利擁護の研修を実施学ぶ機会を確保している。 必要に応じて利用を勧め活用できている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必ず口頭での説明を行い理解をはかっている。 入居相談時や入居中も不安や疑問点を尋ねる事で納得してもらえる様に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段の面会でのやり取りや遠方であればメール等活用し意見要望を受け付け運営、業務に反映させている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段から一緒に業務に参加しコミュニケーションを図り都度意見を活かして反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月一の会議で意見を聞いたり発表する場を作り普段から一緒に業務に参加することで状況把握できており、健康状態や家族状況に合わせて勤務繰りをしたりし努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員それぞれに合った指導を意識している また研修の機会も多く作っているが社内研修が多く外部研修への参加が課題		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡会、施設部会、勉強会などに参加し取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	導入時面接の機会を作ったり、本人の生活歴などの情報を多く集め上手く不安解消できる様努めている。本人だけでなくご家族とも信頼関係を築けるように気を付けている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	導入時面接の機会を作り、ご家族とも信頼関係を築けるように気を付けている。介護や今後の方針なども聞き取りして意思決定を促しつつ状況に応じて見直すようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に包括やMSWIに介介してもらい面談する事で他サービスの利用も含めて対応できるように注意している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	業務の中で本人の能力に合わせてテーブル拭き、食器洗い、洗濯物たたみ干し等の家事協力をお願いすることで演出している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	それぞれ家族にあった面会の継続や体調変化時の受診、買い物の依頼イベントへの参加等をしてもらう事で絆を維持して一緒に介護をしていると感じてもらえる様にしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅への送迎、近隣住民への挨拶 買い物の送迎、 かかりつけ医、散髪先、は変えない等 関係を維持する努力をしている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性を意識した居場所の確保や食事席替えを意識し、職員が間に入る事で関わり合いを多く持てるように努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	外出時などにあつたら挨拶や生前の話をしたり イベントに誘ったりしているが実際の参加にはつなげていない		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の何気ない会話や行動から本人の思いをくみ取る努力をし意思決定が難しい場合はご家族と相談しながら本人ならどうするか検討している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴を御家族に記入していただきおおまかに把握して入居後の生活の中からも情報をくみ取っているが情報が古くなっている事があり、新しい情報の共有が今後の課題		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	おおまかに生活の流れは作りつつも強制にならないように一人一人のペースを大事にしている また変化する体調ADLに合わせて介護出来る様に現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の申し送りや月一の職員会議で意見交換を行ないそれを活かして介護計画を作成している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録に記入し情報共有に努めている 別に指示を出したりして実践に繋がる様にしているが上手く伝わらない事もあり、分かりやすく表示する事が今後の課題		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の体調悪化に対応し市外への送迎をしたり、ご家族との外出外泊の支援などその時々ニーズに柔軟に対応できるように努めている		

事業者名:グループホーム千怒の杜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物と一緒に رفتり、散髪に行ったりを支援しているがインフォーマルな資源の活用が十分でない様に感じる。活用出来る地域資源を把握し利用方法を知る事が今後の課題		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居してからも馴染みの病院に通える様支援している。訪問診療もお願いし適切な医療が受けれるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の訪問時に情報共有し体調の変化に早めの対応が出来る		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後も定期的に面会に行き情報を貰う事で情報交換に努めている。病院の行なう研修に参加したりして関係作りを代えている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に意向を確認し、体調変化に合わせて都度看取りの意向の確認をしている。得た情報は適切に開示しスタッフと共有しているが十分でない様に感じる今後も努力したい		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修実施しているが全ての職員は把握できていない様に感じる今後も経験を積んだり適切な指導をして皆で身につけていきたい		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	起こった際適切に対応できるか不安だったが 先日の台風の際上手く避難する事が出来た 今後も研修や反省会を続け対応力を高めていきたい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけには普段から皆で注意しているが乱れがないか職員間でも声をかけ合うようにしている。また大勢の前での声かけには特に注意し本人の誇りを守れるよう対応している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人のやりたい事や食べたい物など可能な限り対応する事で、普段から希望を言いやすい環境を作る努力をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかに生活の流れは作りつつも強制にならないように一人一人のペースを大事にしている 入浴や食事も強制にならないように注意している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	選べる人は自分で選んでもらい配慮している。また出来ない人でも髪の毛の乱れや衣類の汚れなどは注視し早めに対応している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の能力に合わせてテーブル拭き食器洗いおぼん拭きなどの仕事をしてもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量を記録に残し摂取量を把握できるようにしている。本人の好みや能力に合わせた食事形態や水分を選んで食べてもらう事で摂取量を確保出来る様に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は出来ていないが夕食後を主に口腔ケアを実施してる。		

事業者名:グループホーム千怒の杜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握しその時間に声かけできる様努めている。なるべくオムツ使用せず、している場合も外せないか検討している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の励行やヨーグルト、牛乳の飲用 頓服薬の使用等で安定した排便につながる様努力している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	業務の都合上曜日を決めてしまっているが本人の意向には出来るだけ対応している。又嫌がっている時は無理強いせず次の日に回したり柔軟に対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を心掛け夜眠るリズムをつくるよう努力しているが無理な場合は日中も休息がとれるように休んでもらっている、また必要な場合は眠剤も利用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	名前日付など袋に書いて管理し、服薬のタイミングで手渡している。用法用量副作用については一部の人が管理しており理解不足の所があるので皆で見れる所に薬の説明書を置いたりして改善したい		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯干したたみ、新聞折り、台拭き食器洗いなどの役割、散歩、おやつ作り、ドライブ等の楽しみ事を用意して気分にあったタイミングで実施出来る様に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があったらそれに沿って対応できる様努力している。またご家族の外出希望にも柔軟に応じている。今後も家族地域の人と協力してもらえ様支援を続けていきたい。		

事業者名:グループホーム千怒の杜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	安易に金銭管理を取り上げる事はせず、小銭のみや職員管理介入できる場合はそうしている。また施設内でも支払いや賃金の体でやり取りしたりする事で金銭使用を意識出来る様支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所有して電話する人、親族より手紙を貰って職員と返信する人、中元歳暮等にも対応し 異常な行動でなければ止めない様注意している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空調調節や換気や消臭、日差しのカットに注意したり、季節感を感じれるように季節の花を飾ったりしている。また混乱を招かない様必要ない模様替えは避けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う人と話せるような配置かつ適切に距離が取れる様配慮している。視線にも注目し上手く外せるように注意している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時になるべく自分の物を持ち込めるよう声掛け支援している。また混乱を防ぐために必要ない模様替えは避けているが、転倒リスクなどに対処する時は早目に対処するように努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	工夫はしているが、現状で稼働していたり、大きなリスクがないと対応が遅れる事がある なるべく早く対応できるようにしていきたい		